

彙報

平成 21 (2009) 年度 海港都市研究センターの活動

平成 21 (2009) 年度の神戸大学大学院人文学研究科海港都市研究センター（以下、「海港センター」と省略）は、昨年度から引き続いて文科省・大学院教育改革支援プログラム「古典力と対話力を基礎とした人文学教育」と協力して、海港都市に関する研究会を組織・運営するなど、研究面の拡充を図った。

(1) 人文学研究科共通科目の実施状況

①海港都市研究<前期>

「海港都市研究の意義と変遷」をテーマとして、社会学、中国史、日本史、イスラム史、西洋史などの各分野において、どのような背景のもとに、海域ネットワークやそれをつなぐ結節点としての海港都市、また海港都市における異文化接触などが重要な研究対象として認識されるようになってきたのかを学ぶことを目標に授業をおこなった。人文学に共通する学際的研究動向を身につけさせることをねらいとする。

②海港都市研究交流演習（海港都市研究交流企画演習）<後期>

大学院生が専門分野の枠を越えて横断的に議論するなかで、自らの研究を学際的・国際的な視点から見つめ直し、同時に研究の意義を有効にアピールする能力を養うことを目的として開講した。なお、これは 11 月に神戸大学で開催した国際学術シンポジウム (2) -①の準備報告会も兼ねた。

(2) 学際的かつ国際的な研究交流

①第 5 回 海港都市国際学術研究交流会「越境する人々とナショナリズム」

平成 21 年 11 月 26～28 日、神戸大学において、国際学術シンポジウム「越境する人々とナショナリズム」を開催した。これは、「海港都市」を多角的に考

察するために、国境を越えた研究者同士の意見交換と、大学院生同士による研究交流を目的とするものである。昨年度と同様、海港センターと韓国海洋大学の共催で、これに中山大學、中国海洋大學、台湾大學、木浦大學が参加して開催した。

今回は、海港センター設立 5 年目という節目にあたり、これまでの共同研究の総括を行い、その上で、今後の研究展望について議論する場を設定した。とくに、他者流入によって生み出された社会・文化の諸相について、人文学・理工学の幅広い見地から学際的に議論した。報告者は以下の通りである。

1 日目の午前中は、これまでの共同研究の総括と海港都市文化研究の展望について議論した。報告者は、鄭文洙（韓国海洋）、袁丁（中山）、徐興慶（台湾）、崔鳳（中国海洋）、洪錫俊（木浦）、佐々木衛・添田仁（神戸）。これらの内容については、報告書『越境する人々とナショナリズム』に掲載したので、そちらを参照されたい。

1 日目の午後は、教員を中心に、越境の諸現象についての研究報告を行った。報告者は、竹沢泰子（京都大学人文科学研究所）、田村恵子（オーストラリア国立大学）、安美貞・朴珉洙・李ソニー・金那英・呉美京（韓国海洋）、大津留厚・増本浩子（神戸）。2 日目は、大学院生を中心に研究報告をおこなった。

参加者は、両日とも 80 名前後であった。シンポジウムとあわせて、海外移住と文化の交流センター、白鶴酒造資料館、人と防災未来センター等を巡検した。なお、本シンポジウムにおける朴珉洙氏・李ソニー氏（韓国海洋）の研究報告、ならびに神戸大学院生の研究報告は、紀要『海港都市研究』（5 号）に掲載した。

②海港都市 colloquium (コロキウム)

国内外の研究者が、より広い視野で海港都市・異文化接触について考え、相互に意見を交換する場として、神戸大学において「海港都市 colloquium」を計5回開催した。

第9回 平成21年5月7日 (A棟3階共同談話室)
「海港都市書評会」

評書：山本秀行『アジア系アメリカ演劇—マスキュリニティの演劇表象』、評者：大津留厚

第10回 平成21年7月24日 (B棟251教室)
「海港都市書評会」

評書：園田節子『南北アメリカ華民と近代中国』、評者：陳來幸 (兵庫県立大学)、川口ひとみ

第11回 平成21年8月10日 (A棟3階共同談話室)
「アメリカ移民史研究の行方」

報告者：大津留厚

第12回 平成21年10月29日 (学生ホール)
「現代中国における社会移動と社会構造変動」

報告者：陸学芸 (中国社会科学院社会学研究所)

第13回 平成21年11月6日 (学生ホール)
「海港都市研究センター活動総括報告会」

報告者：佐々木衛・添田仁

③第5回 資料収集・研究交流会

平成22年3月1日～6日、神戸大学において、海港都市研究に関心を持つ若手研究者を対象として、日本において海港都市関連資料を収集するための補助を行う「資料収集・研究交流会」を開催した。海外拠点大学から若手研究者5名を招聘し、彼らが行う海港都市に関する資料の調査・収集を援助した。招聘した大学院生は、尤洪波 (中国中山大学)、李紅英 (中国海洋大学)、韓賢石 (韓国海洋大学)、趙仁暎 (木浦大学)、林書沂 (台湾大学)。作業の補佐には、神戸大学のOD・大学院生があたった。補佐は、それぞれ四方俊祐 (西洋史学)、段東海 (社会学)、金潤煥 (日本史学)、金玄 (日本史学)、藤井孝太 (日本史学) が担当した。

(3) 研究成果の発信

・紀要『海港都市研究』の発行

平成22年3月、海港センター紀要『海港都市研究』(5号)を発行した。第5回海港都市国際学術研究交流会「越境する人々とナショナリズム」での朴珉洙氏・李ソニイ氏の研究論文、加えて神戸大学院生の研究論文を収録した。さらに、平成20年度にオーストラリア国立図書館で開催したワークショップ (昨年度彙報を参照のこと) の論考をそれぞれ収録した。また、投稿論文として稲澤努氏 (東北大学) の論考を収録した。

・海港都市関係資料の調査

昨年度から引き続いて、附属図書館との共同作業を進めてきた。「上海」「上海週報」のデジタルデータ化が終了し、神戸大学附属図書館のHPに掲載された。また「神戸開港文書」のうち未整理分の整理を終了した。

(4) 連携する研究機関の拡充

5月に韓国建国大学ディアスポラ研究所、11月に韓国海洋大学国際海洋問題研究所と研究交流協定を締結した。

(文責：添田仁)